孤独死現場で実践的セミナー開催

現場リポート

遺品整理士認定協会

遺品整理士の養成・認定を行う遺品整理士認定協会（北海道千歳市）は8月 8、9日に東京都内で「特殊清掃現場・実技習得セミナー」を行った。現場は孤独死のマンション。参加者は特殊清掃のやり方、見積もりの出し方、買い取りできるものはあるかなど、実践的なノウハウを学んでいた。

遺品整理の代金はいくら？

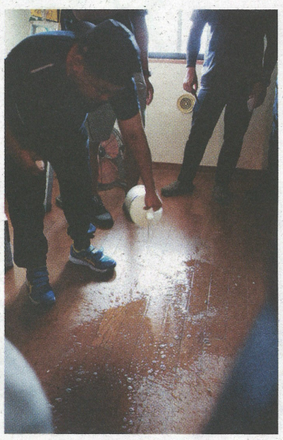
参加者には遺品整理を依頼されたときの見積もりの出し方についてレクチャーがあった。
２日目の例はリビングのみ（上左右写真）で、家電リサイクルが必要なのはテレビとエアコン。リビングの特殊清掃はなし。

講師の塩田卓也さんが出した概算は以下の通り。

- 処分料／18万円
- 人件費（４人×２万円）／８万円
- 家電リサイクル費／2万円
- 諸経費　５万円

計　33万円（税別）

見積もりの計算する参加者のみなさん。
塩田さんが出した概算についてはやや高めで「地方ではこの値段では難しい。２～３人で15～20万円ほどしか提案できない」といった声も。高層階のマンションの場合、運び出す作業が落とし穴で、運搬作業に人手がかかることなどが説明された



（写真左と上）体液が残っている場所に薬剤をかけ、スクレーパーでこすって汚れを落とす。
（写真下）その後、体液がついている部分のみ床をはがした

消臭・除菌ができるオゾン脱臭器の設置方法を体験

特殊清掃の現場に全国から参加者が集合

今回の「特殊清掃現場・実技習得セミナー」の現場は、孤独死した高齢女性の都内のマンション。事前にある程度処理をしていたために、臭いはかなり抑えられていた。

セミナーの参加費は14万8000円（税込）。遺品整理士認定協会では2～3ヵ月に一度、こうしたセミナーを開催。参加資格は同協会の会員のみだが、会員以外でも相談により参加可能だ。

参加者は遺品整理をすでに行っている会社社長、リユースショップ経営者、定年退職後に遺品整理の事業を始めたい人など様々。大阪、愛知、福島、群馬など全国から10名が集まった。

実際の現場で実践的なノウハウが学べると好評で、何回も参加する人もいるという。

遺品整理士認定協会
マネージャー
川向雅都さん

セミナー講師
武蔵シンクタンク
塩田卓也社長

臭いがつく家電は買取りは難しい

特殊清掃が入る現場では、買取りできるものは限られる。同協会マネージャーの川向雅都さんは「家電は臭いがついてしまうので、基本的には処分になります。臭いがしないと思っていたパソコンも電源を入れ、ファンが回ると中に残っていた臭いが出てくることもあります」と話す。

貴金属は大丈夫だが、ブランドバッグはクリーニングが必要になる場合も。買取金額からクリーニング代を差し引くことになる。

日本では売れなくても、海外で売れるものもある。木彫りの人形や家具、食器、UFOキャッチャーのぬいぐるみなどだ。こうしたものを洗浄し、タイに輸出している業者もある。

他にも買い取れるケースが多いのは酒類だ。食器棚などに飾ってある酒には高価なものが混じっていることもあるので、見逃さないよう注意が必要だ。

買取り可能なものがある場合、代金から買取金額を相殺。代金を安く提案することもできる。

「買取専門店に比べると買取価格は安いですが、自分で買取店に持って行く依頼者はほぼいません。おまかせしますと言われることがほとんどです」と川向さんは話す。

今回の現場で買い取りが可能と考えられるもの。上から象の置物、シャンポール リキュール、食器

海外中古市場データ
（日本→海外）2025.7.1~7.31

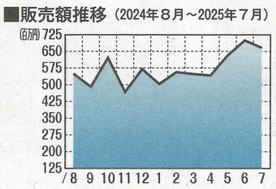
中古業界でも高まる海外市場への注目。その実態を探るために、中古輸出最大手企業の売上げや販売個数を定点で追う。

電気製品・その他

マニラではミニ冷蔵庫が飽和気味

	電気製品	その他製品
輸出総額	3億9230万円	2億7595万円
輸出総数	804,989個	132,920個

■販売額推移（2024年８月～2025年７月）

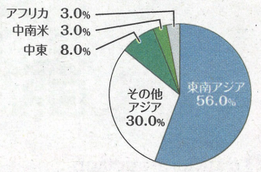
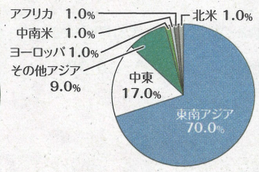


■コメント

●アジア／タイ・カンボジア・フィリピンなどでは、自転車の需要は旺盛。マニラではミニ冷蔵庫やコンピューターミシン（ケースなし）が市場で飽和気味。
●アフリカ／ナイジェリアではトランプ関税の調整により中国輸出が急激な盛り上がりを見せ、海上運賃は30万円以上急上昇した。

■国別比率

〈電気製品〉



〈その他製品〉